



▲春風パウロこと海老沢光義さん(61)は、奥さんのすえ子さんとともに腹話術ボランティアとして全国各地で大活躍。遠くはアメリカ・シンガポール・台湾などへも足を伸ばすそうです。

石岡ギネスブック (24)

腹話術にかけた人生 東田中の春風パウロさん

ログス腹話術研究会の春風パウロこと海老沢光義さん(61)は、腹話術のボランティア活動で世界中を駆け回っている牧師さんです。

三十八歳のときに、クリスチヤンの洗礼を受け、伝道のかた

わら、思えない人に指人形を見せたのがそのボランティア活動の始まりだったそうです。

昭和四十七年、海老沢さんは一人でも活動ができるようにと

考え、腹話術の春風イチロー師匠に弟子入りをしました。

昭和五十年、二十九年間勤めてきた国鉄を、五年後の退職を待たずして退職。残された人生

を奥さんのすえ子さんとともにボランティア活動に捧げる決心をしたのでした。

「これまでにハワイ・シンガポール・台湾・ソウル・アメリカなど世界各国と日本各地を回

ってきました。毎月の半分以上がスケジュールで一杯です。

私は外国へ行っても日本語で腹話術をやっています。相棒の

人形。ふくちゃん。が、言葉の障害とか国際的な主義主張を跳

び越えてしまうんです。人と人との間に人形がいるというだけ

で、雰囲気は和むのです」

海老沢さんの一番弟子は奥さ

んのすい子さん。現在では全国に三百人以上のお弟子さんがいるそうです。

「ここへ習いに来た方には、駄ジャレ・おとぼけ・悪ふざけは絶対にしないと約束してもらっています。後継者の養成という

ことで、無報酬で教えているのですから、真剣に覚えて欲しいのです。婦警さんとか交通巡

視員の方とか色々な方がここを訪れます。遠くは長崎から来た

人を寝食を共にして教えたことでもあります。人形を扱うお金がない人には、妻が人形づくりを

教えます」

部屋には、練習を写したビデオカメラや世界各国を訪問したときの写真アルバムと腹話術人形があふれんばかりでした。

これぞ石岡一。コレクションや特技など身の回りの気付いたこと、自薦他薦を問いません。どしどし編集部にお寄せください。03-1111 内線273